



双松会会報

第29号「双松会」通巻33号「松高北高同窓会報」通巻33号

発行 松江市奥谷町164

島根県立松江北高等学校内 双松会事務局 TEL: 21-4888

FAX: 21-4977

印刷 株式会社島根県農協印刷

TEL: 21-3476

青春グラフィティ Vol. 6

第18期(昭和42年卒)

還暦同窓会雑感

団塊の世代の我々十八期も早や六十歳となり、平成二十年五月にホテル穴道湖で還暦同窓会を行った。百五十名が四班に分かれて写真撮影の後、松本幹彦先生と野津和子先生ご臨席のもとに肅々と式典を終え、祝宴に移った。飲むほどに語るほどに四十余年前の昔に返り、宴は大いに盛り上がった。

奇しくも松本先生が喜寿に、野津先生が古希になられるとお聞きし皆でお祝をする。奥原啓三事務局長が、予想を超える出席者のためお金が多かったと言う。双松会へ寄付することになり、金額未定の贈呈式が行われる。最後に、松江市議 森脇敏信君の北高生ハチャメチャ物語が開陳され会場は爆笑の渦。そして校歌斉唱。三回繰り返され、二次会になだれ込んだ。

夢のような数刻は過ぎ去った遠い昔を思い出させる。松江二中から進学した小生にとつて、川一つ隔てた北高は全くの別世界だった。輝く伝統、自由な校風。質実剛健・自主独立の旗の下に推奨され

る文武両道。そして、一風変わった多くの立派な先生方。小生が所属した化学部の井上尚賢先生は、我々を引き連れて大山への野外実習、安来の日立金属冶金研究所への研修引率、休日には自宅に呼びご馳走して下さった。大学に進学し、化学の基礎課程は高校で既に教わっていたことを知る。

運営を生徒に任されたホームルームも思い出深い。一年生のある時、フオークダンスをすることになった。ところが、恥かしがって誰もやらな。計画した委員も知らぬ顔。担任の松本先生に目から火が出るほど叱られた。以来、我がクラスはフオークダンスとなれば、真先駆けて手を握り全学年の模範となったのは言うまでもない。

北高生活の二大イベントだった穴道湖一周と学園祭。三年生の時、受験戦争の激化を理由に、学園祭を三日から二日へ短縮する案が示された。生徒会は直ちに各クラスに集会を求め、三代俊治君を中心とする学年代表が職員会



石飛 裕

議で理にかなった意見を述べ、案は撤回された。見事な生徒自治。受け入れた学校側の見識。忘れられない素晴らしい学園祭となった。

ところで、高校生は夜も大いに勉強する。勉強を理由に気のあつた仲間が集まり、人生を語り、時には脱線する。今にして思えば、誠に得難い不思議な三年間であった。受験教育ではない、凡才も秀才も分け隔てしない人格教育が行われていたためだろうか。こうして我々十八期は母校への深い思いを共有し、又、皆それぞれに仲が良い。





ごあいさつ

会長

松本幹彦

皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今春、二百九十七名の新入生諸君が希望に胸をふくらませて赤山の坂をあがってきました。今年の入学生は松江中学校から通算しますと百三十期生(高校六十二期)となります。

北高生徒の三分の一に当る諸君が、五月末から六月上旬にかけて県内各地で開催された第四十六回高等学校総合体育大会に参加し、二年ぶり二十一回目の総合優勝を飾りました。このような後輩の活躍は卒業生にとつてもうれしいものであります。これまで総体で優勝した年は大学進学も好成績を残していますから、来春の結果が楽しみです。

さて、皆様ご承知のように本会の収入は在校生が卒業するまで毎月分納する入会金に依拠してまいりました。しかしながら、生徒数は少子化の影響で漸減し、かつては二千人を超える超大規模校といわれた母校も、現在は千名に届かなくなりました。そのため本会の財政が大変厳しくなり、皆様との唯一の絆である「双松会報」の発刊が難しい状況となりました。そこで大



ごあいさつ

校長

大賀敏郎

双松会会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今春、佐藤健治前校長ご退職に伴い、大田高校より転任してまいりました。大賀(おおか)と申します。もとより浅学非才の身ではありますが、微力を尽くす所存です。どうかよろしくお願い申し上げます。

私自身は、溝口知事と同じく「いわみ野会」の会員でございますが、母校に寄せる思いは、齢を重ね、益田を離れてなおさら強く深くなっています。双松会会員の皆様におかれましては、県一の歴史と伝統を誇る母校への思い入れはまた格別なものがあろうかと推察する次第です。

さて、皆様の母校の近況ですが、「質実剛健」「文武両道」の不易の精神の下、生徒・教職員一丸となつて勉学に部活動に日々勤しみ、切磋琢磨しております。六月の県総体では、男女総合優勝旗を二年ぶりに奪還し、過去十年間で八回目という快挙を成し遂げてくれました。今年はずば抜けて強いチームもなく、応援を含めて、まさに全校の力で勝ち取った栄冠と言えます。埼玉での全国総体には登山男女・ボート男女・柔道男子・バドミントン

男子・体操男子・陸上男女・水泳男女が出場しました。

また、文化系部活動も意気盛んです。六月には合唱部・吹奏楽部・箏曲部・弦楽同好会による第三十回定期合同演奏会が行われ、恩師や卒業生の参加も得て大変盛り上がり、好評を博しました。また、当日司会進行でも活躍してくれた放送部は、後日のNHK杯放送コンテスト県大会で十六年ぶりの総合優勝を果たし、箏曲部、囲碁将棋部、百人一首かるた部と同様全国大会へと歩を進めました。

他方、昨今の進学や学力の状況については、学級(二生徒数)減等もあり、安穩としてはおれません。高い知性と豊かな心情を培い、心身ともに健康な人格の形成を目指す北高教育の目標達成の手立てとして、まずは「授業第一」と「あいさつ」を合言葉に、教師も生徒も日夜奮闘しております。

少子化や格差が進行する中で、学校教育も学校経営もますます厳しさを増しておりますが、会員の皆様には母校の教育活動に今後とも変わらぬご支援とご厚情を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさつとさせていただきます。

(平成二十年七月末記)

北高ホームページのお知らせ

北高のホームページでは、母校の最新の動向をお知らせしています。また「外郭団体」もしくは「卒業生のみなさんへ」をクリックしますと双松会関係の情報も掲載してありますので、双松会会員にとつても有用なものとなっております。今回は、松高8期の方が開設しておられるHPも紹介しますので、ぜひ一度アクセスしてみてください。

○松江北高HP



<http://www.matsuekita.ed.jp/>

○松高8期生HP



<http://matsuko8.pro.tok2.com/>

恩師ふたたび



兼折 博

秋風の偈

経験したこともないような酷暑の夏だったが、八月の終頃から秋の気配の動き始めた感もあつて、ほつとする思いもあつた。この時期が来ると、いつも思ひ出すのが「秋風の偈」である。

秋風漸々 秋水冷々

千辛萬苦 負笈擔簦

張公^{オウ}^ノ 李家店

草舎茅庵短^ナ作^レ程^ヲ

この偈を前にすると、新秋のさわやかさが広くひろがってくる思いがするとともに、これから修業に旅立つ弟子たちを送る、あらたまつた、ひきしまつた、そしてまた、温かみの込められた師の思いが、読む者を包む。禅の世界のものならでは、と思われるみごとな偈である。

この偈のはじめの四句は、大燈國師の手に依つて、みごとな書となり、それが軸物に仕立てられて、コビーではあるが、広く世に出廻っている。解説書に依れば、これは大燈國師の法脈上の祖父にあたる、南宋の虚堂智愚が、弟子



たちの修業の旅に出るのを送つた偈だ、とある。わずかだが難解の部分もあるので、解説書に従つて若干補つておく。

「漸々」さやさやと吹く風の音。「笈」おいずる、「簦」雨具、「庵」一里塚、「店」集落、この一行は「張さんの村から李さんの村へ」といつたほどの意。「短作程」短程とは短い道のり。宿場から宿場へとたどりつづ旅の行程をつづける、ということ。「張公」李家。張・李は中国で最も多い姓。このようなみごとな偈に送られて修業の旅に出ることのできた弟子たちは仕合せ者だつたと思うが、はるかな後の世に生まれた我々が自由にこの偈を読むことのできるのも大きな仕合せである。

このコーナーは松江中学、松江高校、松江北高校で教鞭を執られた先生に当時を偲んで執筆していただく新企画です。継続していきますのでご期待ください。

今回の兼折 博先生のプロフィール

昭和7年 松江中学2期卒業
昭和22年 昭和36年 教師として母校に勤務
昭和43年 昭和50年 第30代松江北高校校長
平成6年 平成18年 双松会会長

事務局だより

一、「双松会会報」の発刊に関する諸経費援助について

平成十九年度に本会報の発刊費用の援助をお願いいたしましたところ、七月末で二、九七七件、約三千余名の方々より七八九、一三四円のご拠出をいただきました(決算は、三月末のものであります)。本当にありがとうございます。援助していただいた方々は、別刷りの芳名録に掲載させていただきます。

この会報発行に関わる諸経費援助の案内を昨年度の会報とともに送付した後、会員の方々に、「在校生から会費を徴収せずに年会費制にして卒業生から徴収した方がいい」、「会報をやめてホームページを開いた方がいい」等の双松会運営に関わる貴重なご意見をいただきました。

会費に関しては、会費を含めた双松会運営費全般を考える委員会を立ち上げ審議していく予定になっております。また、ホームページに関しては、会報担当常任委員会や双松会常任委員会で審議しておりますが、管理維持の問題、コンピュータの無い方々への情報提供をどうするか、記録冊子として残しておくものがあった方がよい等の意見もあり、今後も前向きに検討してまいります。当分は今後も本会報を発行し、送付したいと考えております。

最後に、今年度の会報は、より充実したものということで、従来八ページであったものを二〇ページに増やして発行しました。

二、お礼

〇一昨年の創立百三十周年記念総会の折に各期三万円ずつの拠出をお願いしましたが、昨年度および今年度において松中67期、6期、27期の方々より拠出金を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

〇昨年五月に18期の方々が還暦を迎えられた記念に同窓会を開かれました。その際に双松会の会計が苦しいことを鑑みられ、三十万円のご寄付をしていただきました。誠にありがとうございました。

三、名簿「双松」について

一昨年、平成十八年度版の双松会員名簿を発行いたしました。現在、二百部あまり残部があります。一冊六千円ですので、ご購入なさりたい方は、事務局までご連絡ください。

四、各地区の双松会の動向について

- 〇東京双松会の総会
平成20年9月6日(土) 於 如水会館
- 〇広島双松会の総会
平成20年10月25日(土) 於 広島ダイヤモンドホテル
- 〇近畿双松会

「創立50周年記念総会」
平成20年11月30日(日) 於 太閤園

〇東部双松会の総会
平成20年10月中 (詳細は後日)

〇米子双松会の総会
平成20年2月中 (詳細は後日)

五、お願い

会報・名簿・その他双松会全般に関しまして、ご意見・ご提言等がありましたら双松会事務局までお願いいたします。

また、本会報もさらに充実したいものあるいは読みやすいものにと考えております。会員の方々の近況・同窓会・催し物の紹介等がありましたら紙面をご利用していただければと思います。ご投稿をお待ちしております。よろしくお願いいたします。

平成19年度 会報編集助成金会計決算書

収入総額 7,800,794円
支出総額 0円
差引残額 7,800,794円

(収入)		
費目	金額	備考
繰越金	183,998円	
19年度分	7,616,640円	19年度振り込み(2,913件)分
利息	156円	
合計	7,800,794円	
(支出)		
	金額	備考
本会計へ繰り入れ	0円	19年度発行会報印刷補助金として
合計	0円	

第30回松江北高定期演奏会開催

松江北高第30回

定期演奏会に寄せて

島根県立松江東高等学校教諭

勝部 俊行

(一九七九〜一九九三 松江北高在勤)

松江北高定期演奏会、早いものでもう三〇回を迎えるのですね。信じられないという思いがあります。第一回の定演は私が北高に赴任した昭和五十四年のことです。それから、間違いなく三十年が経過したことになります。三十歳、まだまだ駆け出しの頃、県民会館の中ホール(もちろん改築前の)で、経験豊かな生徒諸君からいっぱいダメ出しをされ、湯山昭のア・カペラ、「生きる」を、怯えながらも必死に振った記憶が、つい昨日のことのように鮮やかに甦ってきます。

吹奏楽部が同好会から部に昇格したのもこの年です。楽器が足りず、近隣の中学校や小学校から楽器をお借りし、北高までリヤカーで運んだ覚えもありました。しかし、そんな苦労があったからこそ第一回を感動的に終えることができた、次へ次へと長くつながっていったのだと思います。

あれから三十年、当時の三年生が今や四十八歳、考えれば恐ろしいことです。しかし、私の中では、彼らはいつまでも制服に身を包んだすがすがしい高校生、あの日、あの時の彼らの姿がずっと心に刻み込まれていて決して消えることはありません。

松江北高校の定期演奏会、私にとってはまさに青春そのものの、「永遠に不滅であれ!」と願ってやみません。

島根県立矢上高等学校教諭

石橋 久和

(一九九三〜二〇〇四 松江北高在勤)

第三〇回の定期演奏会の開催、おめでとうございます。輝かしく、すばらしい伝統を作り上げてこられた三つの部に賞賛の拍手を心からお贈りしたいと思います。

私は十一年間愛する合唱部の生徒たちとともに、とても充実した時間を過ごすことができました。その間、生徒たちから数々の栄光をプレゼントされました。限られた時間を有効に使い、一生懸命努力して全員で掴み取った栄光でした。感謝!

コンクールを前にして(特に県大会の時です)、今年も勝ち抜いていけるかどうか、夜も眠れないほど不安になることがありました。その時私はこのように考えることにしていました。「生徒たちは必ずやってくれる!」その思いが裏切られることは一度もありませんでした。

感謝! また、全国大会の前の練習では、毎日幸せでした。「最高の合唱団の前に今日も立ち、指揮ができる。こんな幸せなことがあるだろうか。」感謝! 北高の音楽部の生徒諸君。永遠に栄光あれ!!

第30回松江北高

定期演奏会を終えて

音楽科教諭

勝部 俊一郎

平成二十年六月八日、今年も松江北高定期演奏会は無事に幕を開けました。勇壮な吹奏楽部の演奏から始まってさわやかな合唱部の演奏……。例年と変わらず滞りなく進んでいきます。この演奏会も、毎年回を重ねて今年で三〇回を迎えました。第一回から今まで、振り返ってみるといろいろなことがあったようです。

第一回の定期演奏会は、吹奏楽部と合唱部だけの参加でした。前年まで北高の音楽教育に尽力して来られた米山道雄先生が転勤となり、この年着任した勝部俊行先生による開催でした。第二回から管楽器部が加わり、以後その三部で毎年欠かすことなく回数を積み重ねてきました。その演奏会は一五回からは石橋久和先生に、二六回からは私に受け継がれました。そして第二八回からは弦楽同好会が加わり、現在は四つの部活動で大きな合同演奏会となっております。

北高の音楽部というと、合唱部のNHKコンクールでの全国最優秀賞や全日本合唱コンクール全国大会での金賞、吹奏楽部の中国大会金賞、箏曲部の全国高総文祭出場など、数々の大会で優秀な成績を収めてきた歴史ばかりがクローズアップして見られますが、その活動の根底となるのはやはりこの定期演奏会です。上手に演奏することだけでなく、音楽の楽しさを感じ、聞く人に伝えることが大事だ、ということ、生徒たちは定期演奏会から知らないうちに学んでいると思います。またそのことが、これまで三〇回定期演奏会が続いてきた背景にあるのだと思います。

今年のプログラムには、第一〇〇回の定期演奏会の開催予定日を書かせていただきました(平成九十年六月十二日・県民会館大ホール)。そんな日が存在するのか、県民会館がまだ存在しているのか、日本はどうなっていくのか……? 先のことが見えない時代ですが、北高生がいる限り、定期演奏会は永遠に続いていくと確信しています。これからも定期演奏会にぜひ足をお運びください。



祝! 定演30回!!

吹奏楽部OB会事務局

北高36期 田 邊 真 司

松江北高吹奏楽部は、昭和五十三年に同好会として発足し、翌五十四年に部活に昇格しまし



た。これを機会に「北高定期演奏会」がスタート。吹奏楽部は、定演とともに歩んできました。私が参加した定演は第四回から第六回。当時は勝部俊行先生を中心に、米山道雄先生は作曲で、平山哲也先生（現安来高校）と小西慶一先生（現出雲一中）が指揮と演奏で参加され、楽器もまだ満足にそろっていませんでしたが、仲間とともに心から楽しんで演奏できたことを、今でもはつきり覚えています。

特集2

サッカー部OB集う

第23期 小塚 昭 郎

八月九日、頭が薄くなり、腹の出たオヤジたちが西川津校舎のあった松江市北公園に集合。五十代半ばの面々には、かつて全国の強豪を震え上がらせた迫力は無い。

昭和四十六年、徳島インターハイでベスト16になったメンバーを中心に21期から25期まで十八人が集まった。ことの起りは昨年正月の全国高校選手権で盛岡商業が全国制覇。かつての全国大会初戦で延長戦で勝った相手。これを見た東京在住の橋本啓司が筆者にメール。二年越しの思いが形になった。

昼のグラウンドでのみすばらしい姿とうって変わって、夜の懇親会は元氣瀟灑。当時の黄金時代の指導者、吉岡健二郎氏、持田芳二郎氏も加わり三十七、八年前にタイムスリップ。

その後、卒業生が増えていく中で平成四年にOB会を設立。五年くらい前からは、OB会の度に「30回定演ではOBステイジを！」と構想を練っておりましたが、吹奏楽部OBである田村康雄先生が顧問に就任されたこともあり、ついにそれが実現したのである。

最後になりましたが、定期演奏会を30回も続けてこられた歴代顧問の先生方のご尽力に、心から感謝いたします。

一週間、一月前のことは忘れてしまいう年齢となっても、その当時の一試合、一場面を昨日のことのように話す。共通して言えることは部活があつての高校時代。体力の限界まで自分を追い込んでつかった栄光、挫折、友人は生涯の財産となっていること。部活万歳!!



各期だより

第19期卒業生（昭和43年卒）
還暦記念同窓会のご案内

私たち十九期は、昭和四十三年に五八八名の卒業生をもってスタート致しました。そして、三十一歳の昭和五十六年正月に初めて同窓会を五六名の参加を得て開催致しました。第二回目の平成元年からはお世話になった恩師をお招きし、平成五年開催の卒業二十五周年記念同窓会を機に五年毎に企画することとしました。平成十年の三十周年同窓会には最大の一六四名の仲間が集い、校旗校歌幕を拝借し、前回の平成十五年まで続けて参りました。

本来なら平成二十年に卒業四十周年記念同窓会をするべきでしたが、明年が還暦の年に当たることから平成二十一年正月に左記の通り開催し、ともに還暦を祝いたいと思っております。

日時 平成21年1月3日(土)

記



右記の通り同窓会を開催致します。
正式な案内状は来年3月初めに発送致します。
なお、当日は十二年に一度の日本三大船神事「ホーランエンヤ」渡御祭が行われ、松江は賑わいます。
幹事一同再会を楽しみにしております。
代表幹事 物部 眞二

午後6時
(受付5時半より)
場所 ホテル一畑
会費 男性1万円・女性8千円 以上
事務局・吉金(23-2444)

松高10期（昭和34年卒）
卒業五十周年記念同窓会のご案内

日時 平成21年5月16日(土)
午後4時集合
場所 サンラポールむらくも
(松江市殿町)

双松会支部だより

広島双松会の活動状況

第13期 石原 通弘

一、今期の活動計画

平成十八年十月に設立して今年はいよいよ三回目の総会を迎えます。会員への連絡は同級生や職域を通じて口コミで、また、双松会会報に掲載いただき周知することとしています。広島県及びその近郊にお住まいで同窓会名簿「双松」に登録されている約五〇〇名の方へ十分な周知ができないことが大きな悩みとなっています。会報をご覧いただいた方、ぜひ事務局へご一報ください。

今期の活動は例年の総会・懇親会に加えて、納涼親睦会一回、ゴルフコンペ二回程度開催して会員の懇親を深めます。また、総会時に元RCCスポーツアナウンサー 山中善和氏をお迎えし、「カープよもやま話」を聞かせていただき会を盛り上げていくことにしています。行事予定は次のとおりです。

①第三回総会

日時 平成20年10月25日(土)
16時～19時
受付 15時30分から
会場 広島ダイヤモンドホテル
(広島市西区)

②ゴルフコンペ開催

日時 平成20年9月27日(土)
場所 東広島市内

③納涼親睦会

近畿双松会だより

近畿双松会 事務局長 松本 耕司 (高校16期II北高卒業4期)

「設立五十周年記念総会」

懇親会のお知らせ

近畿双松会は旧制松江中学校卒業の先輩諸兄により、八十余年前の大正末期には活動を開始したと伝えられています。残念ながら、先の戦争により中断を余儀なくされましたが、昭和三十三年、熱心な先輩方の手により再建総会が開催され、新制松江高等学校、そしてその後継である松江北高等学校の卒業生も加わり、本年でめでたく設立満五十周年を迎えるに至りました。現在、三代にわたる四七〇名余の方が会員登録をされており、相互の交流、親睦を図り、母校と郷土の発展に寄与することを目的として活動が続けています。

ただ今、近畿双松会ではこの機会に五十年にわたる先人の足跡に深く思いをいたすとともに、次の段階に向けて新たな第一歩を踏み出すことを期する場として、下記により「設立五十周年記念総会・懇親会」を開催すべく準備をすすめているところです。

世代を超えた楽しくなやかな会合にしたいと考えています。が、とりわけ、「北高世代の若い方々」の積極的な参加は会の将来にとって欠かせないものとして期待をしています。

近畿地区在住の三校の卒業生全員が有資格者ですので、現在、会員としては未登録の方も、是非、同期、友人お誘い合わせの上、奮ってご参加くださいますよう茲にご案内いたします。

記

一、日時：平成20年11月30日(日) 11時～16時
二、会場：「太閤園」
〒534-0026
大阪市都島区網島町9-110
TEL 06-6356-1117

《最寄り 京橋駅(JR・京阪・地下鉄)大阪城北詰駅(JR)》
三、当日は、①ソニー(株)副社長の井原勝美氏(高校20期II北高卒業8期)の記念講演、②美保関町からの「正調関乃五本松節保存会」の皆さんの出演を予定

四、学生世代：例年と同様にご案内
五、会費：八千円(予定)《学生世代を除く》
六、設立五十周年「記念会報」の発行：来年二月の発行を目標に、現在、原稿を募集中

七、入会、総会参加、その他のお問い合わせ先
事務局 松本耕司宛：
携帯 090-6609-8817
FAX 072-843-3625
メール kmatsumoto@hi-hone.jp

▼近畿双松会HPからもお申し込みができます。
<http://www.kinki-soushoukaigou/>

松嶺 (しょうりょう)

“紅陵”のこと

今年から学園祭の通称を「紅陵祭」と呼ぶことになった。生徒会執行部諸君の強い要望によるものである。いくつかの案を示した上で、全校生徒にアンケートを実施して決定した。したがって今年の北高学園祭は「第一回紅陵祭」として始まった。パンフレットの巻頭言に生徒会長が次のように書いている。「確かに名前とは便宜的なもので些細なものかもしれませんが、ししながら、名前がなければその存在を正確に言い表すことはできません。そういう点で北高の学園祭を紅陵祭と呼ぶことによって、その本質が見え、年を重ねるごとに革進するだろうと思います。」

紅陵といえば、まず思い出すのは、

ああ紅陵に正気あり
青春の子が熱血の
双手にかざす紅の
護国旗の色君見ずや

はつきり記憶しているのはこの四節のみだが、四十一年前高一の私たちは竹刀を持った先輩方に囲まれて(脅されつつ)応援歌練習をした(させられた)。部活動以外はあまりはつきりした記憶がない中で、この一コマだけはなぜか

平成二十年度役員会総会報告

七月二十七日(日)十六時から、『サンラポーむらくも』において役員会総会が開催された。松本会長および大賀校長の挨拶の後、会長を議長に次の議題について協議・報告が行われた。参加者は、会長・副会長・幹事長・副幹事長・常任幹事十二名、各期幹事三十四名、学校から校長・教頭・事務長および校内幹事十二名、計五十八名であった。審議終了後十七時から同会場にて懇親会には、四十七名が参加し、盛会となった。

〔協議事項〕

- 一、平成十九年度会務報告、会計決算報告、監査報告
 - 二、平成二十年度会務計画、同予算(案)審議
 - 三、双松会幹事役員(平成九年〜平成十三年卒の各期幹事役員の選出について)
 - 以上の議題についてほぼ原案通り承認された。
- 〔報告事項〕
- 一、双松会報の発行に関わる助成金について
 - 二、平成二十年度双松会会報「二十九号」の発行について
- 以上の報告がなされた。

平成20年度 双松会会計予算書

【収入】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(Δ)	備考
入会金	2,460,400	2,486,800	Δ 26,400	全日制 延べ 11,052人×200円 (921名×12ヶ月) 通信制 100人×2,500円
繰越金	967,542	1,499,409	Δ 531,867	平成19年度からの繰越金
繰入金	1,500,000	500,000	1,000,000	会報編集助成金会計より
寄付金	300,000	0	300,000	北高18期より
雑収入	2,058	3,791	Δ 1,733	預金利息等
合計	5,230,000	4,490,000	740,000	

* H19の繰入金は百周年記念会計より

【支出】

費目	本年度予算	昨年度予算	増減(Δ)	備考
会議費	200,000	200,000	0	常任幹事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,550,000	3,000,000	550,000	会報印刷・発送代、寄付金芳名録
通信事務費	50,000	50,000	0	役員会案内等
記念品費	550,000	550,000	0	卒業記念品・卒業証書用丸筒代
旅費	400,000	400,000	0	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	50,000	0	慶弔費等
予備費	380,000	190,000	190,000	
合計	5,230,000	4,490,000	740,000	

平成19年度 双松会会計決算書

収入総額	4,841,718円
支出総額	3,874,176円
差引残高	967,542円

【収入】

費目	予算額	決算額	増減(Δ)	備考
入会金	2,486,800	2,690,100	203,300	全日制 延べ 11,088人×200円 通信制 189人×2,500円
繰越金	1,499,409	1,499,409	0	平成18年度からの繰越金
繰入金	500,000	500,000	0	100周年記念基金より
雑収入	3,791	152,209	148,418	拠出金(5件)、預金利息
合計	4,490,000	4,841,718	351,718	

【支出】

費目	予算額	決算額	増減(Δ)	備考
会議費	200,000	145,946	54,054	常任幹事会、役員会、各地総会補助
会報発行費	3,000,000	2,893,561	106,439	会報印刷・発送代(25,718通)、払込票
通信事務費	50,000	20,950	29,050	役員会案内等
記念品費	550,000	496,519	53,481	卒業記念品・卒業証書用丸筒代
旅費	400,000	263,840	136,160	各地総会への本部役員派遣旅費
人件費	50,000	50,000	0	
雑費	50,000	3,360	46,640	弔電代
予備費	190,000	0	190,000	
合計	4,490,000	3,874,176	615,824	

くつきりと記憶の底に焼きついている。怖かったゆえか？それもある。高校に入ったばかりの我々に一つ二つ年上の先輩たちはいかにも大人で、雄々しく(この言葉は現代では使えない言葉か)確かに恐かった。しかしそれだけではない(それだけなら単なるトラウマだ)。

紅陵という言葉から始まり、難しい漢語の並ぶ歌の意味などほとんどわからぬままに、自分なりに大人としての雄々しい、気の昂ぶりを覚えたのではなかったか。今、この応援歌の全体を読み返してみると、いかにも軍国主義的色彩濃厚で時代錯誤の感も大いにあるが、やはりそれだけではすまされな、青春の意気軒昂がそこにはある。

そんな思いの中、今、目の前の北高生たちを見ると、きやや背筋の寒くなる思いを禁じえない。勉強、勉強でがんじがらめにされ、気を大空に放つことを忘れ、心を風雲の中に羽ばたかせることを忘れた子どもたち。豊かな、豊かな世の中のせいでもある。しかし何より、そのような教育を施している我々教員の責任であろう。大人たち全ての責任であろう。そんな中에서도しっかりと育っている後輩たちがいると感じさせてくれた「紅陵祭」であった。

松江北高校通信制同窓会会計平成20年度予算

松江北高校通信制同窓会会計平成19年度決算報告

平成二十年度 通信制同窓会役員会報告

平成二十年七月五日(土)午後、松江市のホテルニューアーバンにて開催されました。役員三十名と学校からは高橋副校長ほか四名の参加でした。学校現況報告の後、平成二十二年開校の独立校設立に際しての会のあり方など熱い話し合いが行われ、母校に対する愛情がひしひしと伝わってきました。



北高生の活躍

第46回島根県高等学校総合体育大会結果報告

島根県大会の結果報告

五月二十九日(土)に松江市総合体育館において総合開会式が行われ、五月三十日(金)〜六月一日(日)まで県内各地を会場に各競技が行われました。本校生は、二十七名が十五の種目に参加し、昨年逃した総合優勝を奪還することができました。北高生らしい凛冽とした戦いぶりや、応援は感動を与えることができました。

総合成績

男女総合Aグループ

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

男子

女子

いまま年全国大会に出場だった。しかし、本番では大舞台に緊張しつつも、自分らしくも練習ではみられなかったような素晴らしいプレーを見せてくれた。

★卓球(駒沢オリンピック公園体育館 8/4-7)

○男子団体戦

1回戦

松江北2―3 福島郡山萌世(福島)

○男子個人戦

1回戦

祐源真也1―3 田中(東葛飾・千葉)

2回戦

西川靖晃3―1 荒木伊勢まなび・三重

3回戦

西川靖晃2―3 川岸(旭川北・北海道)

○女子個人戦

1回戦

杉本瑠香2―3 増子(大山・東京)

団体戦は初戦で強豪校とあたり、実力及ばず初戦で敗退してしまっただけで、選手は皆精一杯やっていたが、全国で勝ち上がるには一歩及ばなかった。卓球ではメンタル面の強さが大切だと思われ、いい勉強になった。敗れたことは悔しかったが、選手は自分たちが全国で戦えることを知り、来年以降の雪辱を誓う者もいた。

★バレーボール(平塚市立第一体育館 8/10)

○男子

1回戦

松江北0―2 都島第二工業(大阪)

○女子

1回戦

松江北2―1 秋田明徳館(秋田)

2回戦

松江北0―2 岡山後楽館(岡山)

★全国大会に出場して★



2年
前島千亜希

NHK杯全国放送コンテストは、言わば「高校放送部の甲子園」である。

私が出場したアナウンス部門は、自作の原稿と直前に与えられた課題原稿を読む。そして発声、アクセント、イントネーション

などの様々な項目で審査される。だが、アナウンス技術のみを競うのかと言うとそうではなく、原稿の良し悪しも大きな決め手となる。自分の足を使った取材力、身近なテーマ性、高校生らしい視点や提言などが問われる。

実際、私も、自身の読みやすさだけでなく、聞き手にいかに分かりやすく、心に留めてもらえるか、地方予選、県大会と何

男女ともに少ない練習時間のなかで、チームメイトと友情を深め技術向上を目指しよく頑張った。結果として男子は一勝することができませんでした。男子は、それぞれがもてる最大限の力を発揮しよく戦った。女子は、新たなメンバーを加え、昨年の悔しさをバネによくまとまったチームとなった。一回戦の出だしは緊張のため動きは悪かったものの、二セット目以降は自分たちのスタイルを取り戻し、一勝をすることができた。二回戦は前年度優勝校というところもあり、相手の勢いにのまれ自分たちの力を出し切ることができないまま負けてしまった。

★陸上競技(東京国立競技場 8月16日・18日)

石塚 海 100m 8位 13秒17

200m 7位 27秒28

入学以来練習を重ねてきたが、一般は大会の雰囲気と東京に慣れた見聞を広めるだけとなり、予選で敗退した。現在トレーニングジムで筋力アップを図っているの競技力を十分つけて来年の入賞を目指したい。

★バドミントン(小笠原リナ 昌原早己)

○個人戦

男子2回戦

米田明伸0―2 内村(尼崎工業・兵庫)

女子1回戦

内田由貴0―2 原口(佐世保中央・長崎)

全国大会のレベルはやはり高く、二名とも健闘したが、今一歩及ばなかった。いい経験になったのではないかと思う。

英語弁論大会を終えて



3年
小村 夏子

まず初めに今回の大会でお世話になった先生方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ご多忙の中指導してくださった大家先生、八幡先生、ナディーン先生、引率してくださった日比野先生、本当にありがとうございました。

今大会では国際交流や国際問題がテーマだったのですが私は海外に行ったことがまったくなく、ホームステイの受け入れもしたことなかったのが第一段階の弁論内容作成で行き詰まりました。そのせいで一番困ったのは練習時間が少なく、他人に自分の弁論を見

てもらった機会が少なかったことでした。私は発音にすぐ癖がついたり、抑揚が無かったりするので絶対に誰かに自分のスピーチを聞いてもらいます。また、スピーチの目的は人に伝わることで、他人に自分のスピーチを聞いてもらうことはすごく大切なことだと思います。今回は三人の先生方に聞いていただいたことで多くの発見をすることができました。

私がこの大会に出た動機は中学生の時の体験が強く影響しています。英語スピーチを初めて聞いたのは中学一年生の時の英語弁論校内予選の時でした。その時間いたある先輩のスピーチに私は深く感動しました。発音がきれいというのほもちろん、観客やその場の雰囲気を感じてやるようなスピーチでした。人が感動するスピーチに中学生の時に出会えて私は本当にラッキーでした。それ以来、私は先輩のスピーチにあこがれていくつかの大会に出てきました。大会が終わるといつも、今の私のスピーチに中学生の私は感動してくるだろうか、と考えます。そのたびにまだまだなんだろうなあと感じてしまいます。私は大学に入ってもしんどくスピーチ大会に出続けたいと思いますが、それでも「人が感動するスピーチ」を目指していきたいです。

北高ではこの英語弁論大会に参加する人がほとんどいません。教育格差のせいかな、島根の英語スピーチのレベルも下がってきています。私は今、北高こそが英語弁論大会に積極的に参加し、率先して島根県の英語スピーチのレベルを上げていってほしいです。

第60回 学園祭
第1回 紅陵祭

きらめき
煌
We'll catch the star~



平成20年度
前期生徒会長
2年 加藤 智崇

夏の暑さも少し引き、季節の変わり目を感じる今日この頃ですが、北高では再び、学園祭に向けて熱気に包まれました。

今年から、北高の学園祭は、校舎のある赤山の別称である「紅陵」の名を取り、紅陵祭と名を変え、更なる躍進を成し遂げようとしています。

今年の紅陵祭は、例年通りではありませんが、PS部力作のムービーが流れる開会式、東大教授である刈谷先生の講演を始めとし、三日間に亘りルームや仲間とともに創り上げる様々な催し物が計画されています。

天気予報を見ると、天気はあまり良くなり、心配ではありませんが、一生懸命に準備をする生徒(私もですが)の姿を見ているとは是非とも快晴であって欲しいと願い、照る照る坊主を作りたくなります。

生徒一丸となって行われる紅陵祭、お時間がある方は是非、見に来てください。

本年度の進路状況

「揺るがぬ不易」

OECDの学習到達度調査を鑑み、国際競争力を支える教育現状の改善を図るため、事実上「ゆとり教育」からの方向転換がなされました。また、規制緩和の構造改革の中、教育環境も新自由主義的な思潮の影響と相まって、教育的受益を、私的なものが強まっています。

これは、バウチャー制をはじめとする教育機会の自由選択を自己責任としてみる教育の私事化の提え方で、教育の成果を個人の受益とみる見方の広がりとも言えます。首都圏を中心とし、都市部での私立中高一貫校への進学の流れの顕在化は、進路選択を有利にするための教育環境を用意しようとする教育の私事化の一つの例とも見る事ができます。

教育の私事化の流れを否定することも止めることもできません。しかし、地域間格差の問題とも関わり、公教育の果たす役割を再認識する必要がある岐路に立たされているのも事実です。

平成十八年から三年間にわたり、本校生の在学時、卒業後の進路意識や母校への意識等の長期にわたる追跡調査が東京大学教育学部大学院によってなされました。調査にご協力いただきました卒業生の皆様には、現在もその調査にご協力いただいている方もおられ、この場をかりて心から感謝申し上げます。

この調査分析から「将来、社会のために貢献したい」という意識が強い北高生、「勉学のみならず、学校行事・部活動を通じて、学力以外の力（リーダーシップ、一つのことに忍耐強く取り組む、

自らが企画・計画して生活する姿勢等）が社会貢献意識を萌芽させて育っている北高生」、「学校の歴史、伝統の認知が、将来像の形成の礎になっている北高生」の姿が浮き彫りになりました。これは、都市部の調査対象校

とは異なる結果でした。調査に協力いただいたのは現大学四年生です。若い世代の卒業生も、先輩の方々が培われた「世界の人たる誇りにたたん」背中を見て、社会的な視野に立ちその延長線上に自己実現を図ろうする伝統が根付き、継承されていることを、本調査を通じて確信した次第です。

「強い社会貢献意識」は、ここ赤山の三年間、日々本気で、学びに、部活動に、生徒会活動に、学校行事に、何事にも一所懸命・一生懸命、全力投球して、自分と対峙し、自らの力で困難を乗り越え、目標を極める経験を通じて育てられたものです。それは、個々の「生き方」の礎をも築き、気概をもった若人を全力で育てることが、赤山の道場の使命であり、不易であり、不易の不易は今も受け継がれ、「質実剛健」「文武両道」の精神が貫かれています。

「進路状況」

大学全入時代が到来し、全国的な特徴として、進路環境に於ける大学の二極化が顕著になっています。この十年で十八歳人口は二三・五%が減少し、この二十年で全四年制大学の数は一・五倍に膨れ上がり、今春の入試では、私立大学の四七・一%が定員充足できない状況になりました。その一方で、教育・研究環境等を熟慮し、生徒も「入れる大学」から「入りたい大学」の意識が強くなり、難関大学志向は年々強まっており、難関大学志願者の寡占が進んでいます。本校も同様の特徴があります。その一方で、地元志向が強い生徒もあり、多様な進路意識に対応する必要があると見えます。

今春の卒業生は、体育系では、前人未踏の果総合総合優勝五連覇の目標を果たすことができませんでした。男子総合優勝、男女総合準優勝を果たしました。また、より高みを目指し、全

国で勝つことを目標に努力をした選手が多くいました。全国大会で優勝・入賞したり、過去の北高の上位進出の記録を塗り替えたり、輝かしい成績を築きました。文化系では、全国総文祭に過去最多の七団体が出場し、部の成果を競い、賞を獲得する部もありました。体育系・文化系両方で部活動を活気づかせた学年でした。また、その多くの生徒諸君が部活動引退後、鮮やかな切り換えを果たし、高い志望を掲げ、高い集中力と、主体的な学びができる文武両道の実践者となりました。

今春の進路状況を報告させていただきます。平成二十年三月卒業生からは八クラスで臨む入試となりました。進路状況については表の通りです。

進路状況

平成20年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数 (平成20年4月集計)

卒業生	平成18年3月			平成19年3月			平成20年3月		
	現役	卒生	計	現役	卒生	計	現役	卒生	計
国立大学	211	34	245	175	39	214	141	49	190
公立大学	44	6	50	31	11	42	34	9	43
私立大学	266	77	343	275	58	333	243	125	368
短期大学	65	1	66	68	2	70	55		55
専門学校等	42		42	33		33	15	1	16
就職									
合計	628	118	746	582	110	692	488	184	672
クラス数	9クラス			9クラス			8クラス		

東京大学の合格者数は二名、京都大学十名、旧七帝大を合わせた合格者数は、大阪大学十二名をはじめ、合計四十名でした。国公立大学のべ合格者数は二三三名で、入試日程が前期のみ、または、前期に大幅な定員をシフトさせたことから現役を中心に、対前年から合格者数を減らすこととなりました。特に、東京大学においては、人気集中と難化によって、多くの生徒諸君が挑戦しましたが、合格させることができなかったことは、教員の責任であると考えています。これに拮抗し、たく、生徒のチャレンジャー精神に添え、突破できる力を育てるために全力を尽くしたいと思っています。

私立大学は、地方開催受験、センター試験利用等の受験方式の複数化にともない、本学受験でなくとも受験が可能になったため、既卒生を中心に合格者数は対前年三三・五%増となりました。のべ合格者の約三分の一が、早慶十五名、関関同立九十名をはじめとする難関大学が占めています。

「後輩達に熱いメッセージを」

昨年度から授業の中で双松会の方を講師にお招きし、母校の後輩に講話を頂いておりました。後輩方が歩まれた今までは、そして、母校への愛、さらには、これからの未来予想図をお話しいただき、後輩達の進路意識形成の一助とする企画です。昨年度は、十二名の方に講話を頂き、広い視野に立つた世界観、青春の今何をなすべきか、そして、先輩への熱いメッセージ・エールを送っていただきました。先輩達の人生そのものが、後輩達の教科書であり、百三十年余におよぶ永き伝統の松江北高校にとつての財産であると考えております。自薦他薦問わず、講師の方をご紹介いただきたいと思います。何卒、よろしくお願いたします。

「連絡先0852-2316988」
松江北高校進路指導部

編集後記

NHKの朝の連続ドラマ「だんだん」がスタートしました。毎回のように映し出される穴道湖や松江大橋を県外にお住まいの方は懐かしくご覧になられていることと思います。実は、我が北高においてもロケが二日間に行われました。さっそく初回からその場面が登場していましたが、三十期以後の方、母校の姿や教室風景にお気づきになられたでしょうか。また、生徒たちも約三十人がエキストラで出演し華を添えました。この番組を機に全国に松江のファンが生まれ、訪れる方がより増えることを願いたいものです。

会長からのあいさつなどでもご報告しておりますとおり、本会報の発行経費への協力金として、還暦を迎えられた十八期の方々からの三十万円をはじめ、たくさんの方からご厚志をいただきました。みなさまの母校に対する熱い想いを改めて感じたところです。少しでもお気持ちに込めようということで、今回、紙面を二ページ追加しました。読んでいただける記事をと編集者一同、構想段階での意気込みはあったのですが、現実とはなかなかうまくいかず、まだまだだと思っております。今後とも、紙面の充実を心がけてまいりますので、みなさまからのご意見やご提案、そして、ご寄稿をお待ちしております。

T・M (二十八期)